

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念に基づく事業所目標を事業所内の目に留まる場所に掲示している。月一回事業所会議の場で、理念や目標の意識付けをし、同じ目標に向かってご利用者の支援を行っている。職員面談時や日常のケアの相談時にも、理念や目標に立ち返っている。 | 法人の理念に基づく事業所目標を職員の目に留まる場所に掲示している。月1回のユニット会議で法人の目標と連動してユニットごとの目標を立案し意識付けをしている。同じ目標に向かって個人ごとの重点目標を決めてユニット内に貼りだし、半年ごとに全体会議でも振り返りの機会を持ちながら更新している。職員面談などで個別の目標をどうするか相談しながら決めて実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で以前に比べると交流は少なくなりました。感染対策を行いながらボランティアの誘致や近隣の事業所・保育園との交流を行っている。また事業所内の企画や行事に近隣の方や関係各所をお誘いしている。 | 面会やボランティアの受け入れなどコロナ禍で交流が少なくなったが、感染対策をしながら再開し始めている。一階と二階のユニット名選挙で選挙管理委員会を立ち上げ投票して貰い、ユニット名を決定した。また夏まつりなど行事を通して近隣の方や外部の方との交流を行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ご利用者と職員が地域貢献するため、切手切りや、移動スーパーのご案内をしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、運営推進会議を開催(R4年度は書面開催)した。ホームの運営状況や活動報告を行い、頂いたご意見を職員間で共有し、日々の業務の励みとしている。 | 運営推進会議は、2ヶ月に一回対面で開催しており、事業所の運営状況や活動情報を報告している。同法人の他事業所と一緒に運営推進会議を開催しているので、家族会代表、町内会長、民生委員、包括支援センター、他グループホーム管理者、他小規模多機能ホーム管理者など、多くのメンバーにより開催している。意見や質問も多くその場で意見交換する事もあり職員にも回覧して共有している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ご利用者がホーム内だけでなく地域でご自分らしく暮らすための協力の依頼や相談をさせていただいている。 | 日頃から利用者が地域との繋がりを築くため、市の担当者と連絡を取り合い情報や助言をもらい、協力の依頼や相談に乗ってもらうなど、連携関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修に参加し、それを基に事業所内研修を行っている。サービス内容のご理解をご家族に頂き、事業所職員全体で取り組んでいる。 | 事業所では法人全体で年間スケジュールに研修計画を立てており、外部の身体拘束防止等の研修に参加した職員の資料を基に、伝達講習や内部研修を実施している。職員全体が理解を深めることで日々のサービス提供に活かしている。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修に参加しそれを基に事業所内研修を行っている。サービス内容をご本人やご家族にご理解頂き、事業所職員全体で不適切なケアを見逃さない風土づくりに努めている。 | 虐待防止等の研修でも、外部研修での資料を基に事業所の内部研修を実施している。積極的に情報を共有しており、職員間の共通理解を深めて日々のサービス提供に活かしている。また、サービス内容についても本人や家族にも理解してもらうよう努めている。事業所職員全体で不適切なケアについて、互いに注意出来るよう会議の議題として話し合い不適切ケアを行わないように努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員全員が制度について十分な理解ができているとはいえ、改めて勉強会が必要。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご不安や疑問点が無いよう、補足説明などで対応し、いつでもご相談いただける声掛けや雰囲気を作るようにしている。ご本人へはわかりやすい説明となるよう補足説明をしている。また職員が内容を把握できるよう、都度説明を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常的なやり取りの中で、ご利用者やご家族が意見や要望が言いやすい環境となるよう努めている。また玄関先にご意見箱を設置し、苦情相談窓口についてもご案内している。 | 事業所では利用者との日々の暮らしの中で、気軽に何でも話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族とは受診や面会時に意見をもらえるように努めている。以前は利用者の状況変化の説明が足りなかった事もあり、細かく丁寧に説明し、密にコミュニケーションを取るように丁寧な対応を心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員の声に耳を傾け、職員の意欲向上につながるように努めている。会議や個人面談を行い、職員の意見が現場へ反映されるような環境作りに努めている。 | 管理者は定期的にユニット会議や個人面談で職員から意見を汲み上げている。新人職員も多いので、リーダーからの面談で困りごと、目指している事、目標などを聴き取るとともに、管理者からは目標評価の面談など行っている。また、日頃から様子が気になる職員と面談し意見や提案を出しやすい環境作りにも努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の目標設定で、個人の目標を立て、実行し、評価フィードバック面談を行っている。目標以外にも、職員の勤務態度や実績に目を向け、働き甲斐のあり働きやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社員のスキルアップを目指し、事業所内外の研修に参加している。新人職員にはOJT担当者をつけ、業務の中で育成している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修やグループホーム同士の交流などを通じて同業者との意見交換や交流する機会がある。同じサービスを利用しているご利用者の支援の統一のために、情報交換ができています。また他法人とも協力し職員の交換研修を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人やご家族が発する言動から思いを知るために、思いを馳せ、信頼関係の構築に努め関わっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の不安が伝えやすい関係づくりや環境づくりに努め、聞いた際は慎重に職員間で話し合い、よりよい支援につながるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 計画作成担当者に相談しながら、ご本人やご家族にとって良いと思われる支援を考え、状態に応じた提案をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員がご利用者に励まされることも多く、笑顔や元気をいただくことが職員の励みとなり、互助の関係になっている。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人とご家族が少しでも関わることができる安全な環境を作り、ご家族の力を借りながら、ご本人が安心して過ごすことができている。 | 普段から利用者家族と連絡を取り合い協力を得られるように努めている。海外にいる家族もおられ、日時を合わせて連絡を取るなど安心して本人を支える関係作りができるように努めている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居後も馴染みのお店に行ったり、自宅で過ごす時間を作ったり、ご利用者にとっての思い出や大切な人、モノが、ホームでの暮らしや病気によって途切れないよう努めている。コロナ禍で面会や外出の頻度は低下してしまっただがその中でもできることをもっている。 | 利用者と職員で自宅で過ごす時間を設けたり、必要な物を取りに行ったり希望があれば計画を立てて支援している。コロナ禍で外出の頻度が減ったが、移動販売車が毎週決まっている時に来て、惣菜やおやつ、個人の買い物をするなど、馴染みの関係が継続されるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者がお互いを心から気遣い、声を掛け合う姿が見られる。関係が続くよう、環境調整を行っている。またコミュニケーションが円滑にできるよう籍の配慮や会話の橋渡しを行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご本人のご利用先やご家族に連絡を取るなど、関係が途切れないよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人やご家族とのかかわりを中心に、職員間で情報共有を行い、ご本人の思いに可能な限り沿う支援ができるよう計画作成担当者を中心に把握に努めている。場合によって、ご家族や知人から情報収集を行っている。 | 利用者との日常の関わりの中でその人の思いや希望の把握に努め、計画作成担当者を中心にアセスメントシートを活用して職員間でも情報共有している。また意思疎通が難しい場合は、家族や関係者から情報を貰いその人の思いや暮らし方に添えるよう努めている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の関わりから情報を集め、把握に努めている。日々の生活の中で疑問が生じたときは都度ご家族様や関係のある方に聞き取りを行っている。 | 入居前情報として申込書に記入された情報をもとに、本人との日々の関わりの中でこれまでの生活環境や暮らし方を聴き取り情報収集している。また入居前の担当者や家族からも情報を貰い、利用者をより深く理解できるように努めている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 有する力に職員が限度を決めることなく、ご本人の可能性や環境の工夫などを常に考え支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者が中心となり、ご本人やご家族のご意向を伺いながら、チームで課題を見出しケア内容について計画書を作成している。 | 本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意向を確認している。計画作成者と居室担当者が中心となり、モニタリングシートや出来ること出来ないことシートを活用しアセスメントが行われている。チームで気づきや課題を見出し本人、家族の思いや意向を反映し現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の暮らしの中での気づきを見落とさないよう個別記録に残し担当職員中心に職員間で共有して、変化に応じてケアの見直しをするよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | GHだけでなく、空SS・共用型DS・緊SSなど、多機能的にサービスを展開し、地域の方々のニーズに対応する土台がある。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍以降途切れてしまっている。社協との繋がりをきっかけにウィズコロナ時代の繋がりを模索している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前のかかりつけ医を利用する場合はご家族の協力のもと受診支援をしている。定期受診や緊急時の対応など適切に支援できるように、情報を伝え支援の検討をしている。往診医の対応もある。 | 事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医で医療が受けられる。入居前のかかりつけ医へは、家族同行にて受診となっている。医師へは、日頃の様子、体調、変化等「利用者の様子について」の書面にて情報が提供される。往診医や医療連携の看護師が月4回来訪するなど適切な医療を受けられるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|--------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月4回の看護師訪問による様子観察と相談助言を得ている。緊急時も看護師へ報告し、適切な対応ができるよう指示を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 計画作成担当者が中心となり連携をはかっている。退院後も安心してホームで過ごせるよう、ご本人やご家族の不安事を減らせるような協力体制がとれるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時と体調に変化があった際にはご本人の状態の変化に応じてその都度相談している。事業所としてできることを明確にしたうえでご意向に沿える体制を整えている。 | 入居時に「重度化した場合や終末期ケア」について説明している。体調変化に応じて主治医、家族と情報を共有しながら事業所として出来ることを伝え支援している。事業所としてできることを明確に意向に沿える支援体制の構築に取り組んでいる。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、実践力を高めるための研修やシュミレーションを行っているが、全職員が安定した力があるかという点と不十分。 | 急変時や事故発生時の対応マニュアル、夜間緊急マニュアルを作成している。救急要請時のアクションカードが、各フロアーに貼られ、AEDや吸引機等が置かれているカートにも取り付けられている。全職員が実践力を身につけるため、また、初期対応ができるようAED研修、救急搬送連絡やDVDを使用した研修が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の昼夜想定避難訓練のほか、災害備蓄品を揃えている。より具体的で現実的な避難方法をシュミレーションしている。隣の看護小規模多機能ホームあきはとの協力体制を築いている。 | 年2回の昼夜想定した避難訓練を実施している。現実の水害時は隣接の施設への避難や垂直避難も検討され、火災時の避難では襪を使用し避難誘導するなど、より具体的な避難方法が検討されている。玄関には「我が家の避難所」が掲示され、水害時や地震災害時等の避難場所が分かるようになっている。法人のBCPのひな形を参考に事業所のBCPを作成しており、災害備蓄品の管理が行われている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉かけに職員間で注意しあったり、研修の受講やホスピタリティ委員会からの発信によってモラルが低下しないよう努めている。 | 法人のホスピタリティ委員会発信の「心地よい挨拶・言葉づかい・表情ができる事業者」等の目標を掲げ、事業所全体で取り組んでいる。日々の声掛けや対応について毎夕話し合う時間が設けられ、職員同士注意しあい尊重した言葉がかけや対応ができるよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の希望や思いを話しやすい環境づくりや、関係性構築に努めている。発言だけでなく、言動から思いを読み取っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員都合の支援になっていないかを常に意識し、ご利用者本位の支援ができるよう日々模索しながら業務改善をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服選びや化粧など、ご本人らしく過ごせる支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食を通じて季節を感じ、懐かしさを感じ、今を知り、誰かとつながることができるよう、楽しんでいただいている。買い物、調理、味見、片づけなど、できることを楽しみながらしていただく工夫を行っている。好き嫌いも考慮し対応している。 | コロナ禍で、3食配食サービスの利用であったが、「食」を通じた様々な取り組みや楽しみを提供するため、配食サービスの活用やネットスーパーや移動スーパーでの食材を購入し工夫して、その日のメニューを考え手作り提供している。調理や味見等、楽しみながらできるように工夫して利用者と一緒にしている。食器等小鉢を使用した見た目の工夫や仲の良い方と食べられるよう席の配置等も工夫している。また、好き嫌いや咀嚼等、利用者の状況に応じた提供に努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご利用者に適した水分量や食事摂取量の把握に努めている。接種時の変化を職員間で共有し、看護師の助言も受けながら形状も個別に対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔体操に加え日常的に歌を歌ってもらったり、笑ってもらうことで口腔内の状態をいい状態にできるよう努めている。歯科往診にも対応している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご利用者に合わせ、定期的にトイレへお誘いしている。羞恥心に配慮し、できるだけご本人でできるよう、わかりやすい表示や置き場所の工夫、声掛けを行っている。清潔保持に配慮している。 | 利用者に合わせて排泄ができるよう排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しての誘導や利用者の様子など、心身の状況に応じて付き添いや見守り支援を行っている。誘導時は羞恥心やプライバシーにも配慮し周囲に気づかれないように声掛けを行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取量を意識し、毎日の乳製品や食物繊維の摂取、適度な運動をしていただくなど工夫している。その方に合った排泄パターンの把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ご本人の希望やタイミングを考えたり、入浴剤の使用などで楽しめる工夫を行っている。 | 利用者の希望やタイミングに合わせ入浴支援が行われている。入浴剤や菖蒲や柚子など季節を感じられる楽しみのある工夫も行われている。長湯の好きな方へは体調を考慮しながら入浴してもらい、入浴拒否のある方へは、タイミングを変えての声かけや清拭を行うなど利用者個々に沿った支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者の生活習慣やその時の体調を考慮しながら、休息をしていただいたり、安心できる室内環境の把握と実現に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の形状を飲みやすいものに変更していただくなど、ご利用者が無理なく飲める工夫をしている。下剤などは相談しながら減らす方法を模索し、支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や日々の会話から何気ない一言を聞き逃さず、楽しみにつながる過ごし方を模索し、環境整備を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で以前よりも外出は減ってしまった。感染対策を行い、人混みを避けながら、ドライブや近隣の講演などに出かけている。 | コロナ禍で以前よりも外出は減っているが、近隣公園や中庭、ドライブに出ている。荻川コミュニティーセンターの文化祭では利用者のパッチワークや縫物の作品やハロウインの飾りつけを出展し、利用者と一緒に見学に行くなど普段は行けないような場所でも変更できるよう支援している。また、結婚式への参加や外泊等、家族の協力を得て出かけられるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金はホームの金庫で保管をしているが、ご家族と相談しながら可能な限りご自身の希望でお金を持ち、支払いなどを行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | お礼の手紙や電話なども、ご本人ができるまたは携わる支援をしている。年賀状などの季節のあいさつも、ご家族だけでなく知人や親戚などに送れるよう支援している。コロナ禍以降は定期的にビデオ通話での面会を行われる方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じる飾り付けや、生花で空間から力をもたらえる工夫をしている。安全に安心して過ごせる環境を目指している。 | 事業所内リビングの共有スペースは広く、壁面には行事の写真等が掲示され、神棚が備えられ、季節に応じた飾り付けが行われている。また、いろいろなタイプのソファが配置されており、利用者が思い思いの場所で時間を過ごせるなど、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるよう工夫されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 落ち着いた居場所作りや、ご利用者同士がお茶を入れあうなど程よいつながりを感じられる空間づくりを心掛けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から大切にしていた家具や雑貨を持参していただいたり、安心できる思い出の景色や人物を写真で飾ったりしながら、居心地よく過ごせる環境づくりを心掛けている。 | 居室内は本人家族と相談し、使い慣れた籐の椅子や家具、家電製品、寝具類や床マットなど、家族の協力を得て配置されている。在宅生活を感じながら、ゆったりと居心地よく、安心して過ごせるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者の生活の癖や、活動しやすい環境づくりはもちろん、安心・安全に生活が送れるよう環境を整えている。 | | |